

秋出しスカシユリの定植時期と切花品質

目時 秀樹・畑井 昭一郎・竹村 達男

(青森県畑作園芸試験場)

Effect of Planting Times on the Quality of *Lilium elegans* for Autumn

Hideki METOKI, Shoichiro HATAI and Tatsuo TAKEMURA

(Aomori Field Crops and Horticultural Experiment Station)

1 はじめに

スカシユリは栽培期間が高温であると生育・切花品質が低下することから、夏期冷涼な気象の青森県には好適である。本県におけるスカシユリの採花期は7月上旬～中旬であるが、作期拡大を図るために、球根の長期冷蔵による秋出し栽培について検討した。

2 試験方法

(1) 供試品種：“清津紅”，“エンチャントメント”，“明錦”，“小田切黄透し百合”

(2) 定植時期：① 7月15日，② 7月25日，③ 8月5日

(3) 球根の冷蔵と栽培法

昭和60年；前年の11月20日に湿ったおがくずで包み，定植時期まで $-2^{\circ}\text{C} \pm 1^{\circ}\text{C}$ の冷蔵庫に貯蔵した。定植5日前に出庫して， $4 \sim 5^{\circ}\text{C}$ で順化し，所定の時期に雨よけハウスに定植した。定植後は黒色の寒冷紗（遮光率51%）で被覆した。

昭和61年；前年の12月3日に湿ったおがくずで包み，定植時期まで $-2^{\circ}\text{C} \pm 1^{\circ}\text{C}$ の冷蔵庫に貯蔵した。定植3日前に出庫して，約 3°C で順化し，所定の時期に雨よけハウスに定植した。雨よけハウスは天井に黒色の寒冷紗（遮光率51%）を張り，定植床は黒色ポリマルチを被覆した。また，定植後は黒色の寒冷紗（遮光率51%）で被覆した。

(4) 栽植様式：うね幅120cm，株間15cm，条間15cm，3条植え。

(5) 施肥量（全量基肥，kg/a）：堆肥 200，苦土重焼リン12，苦土石灰20，N1， P_2O_5 1， K_2O 1

(6) 区制：2区制 1区24株

3 結果及び考察

(1) 気温の推移

雨よけハウス内の半旬別の最高気温と最低気温の推移を図1に示した。2か年を比較して見ると，昭和60年が昭和61年より，定植直後の7月4半旬から9月2半旬まで高温で推移している。

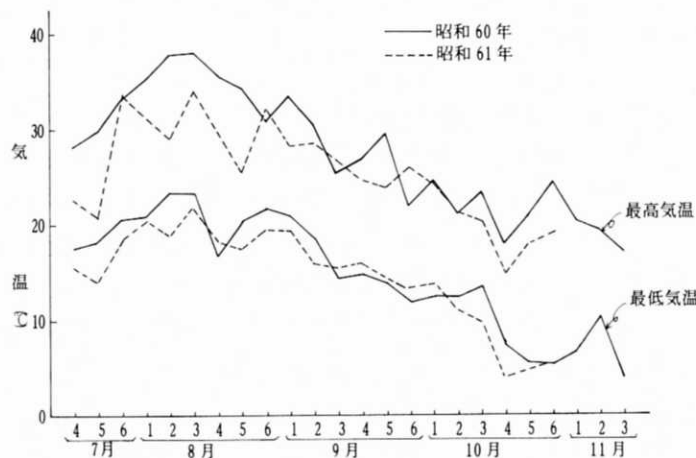


図1 雨よけハウス内の半旬別最高気温・最低気温の推移

表1 採花期と切花品質（昭和60年）

品 種	定植時期 (月・日)	1球当たり 球根重 (g)	定植時期～ 萌芽最盛 (日)	採花期 (月・日)			萌芽最盛～ 採花最盛 (日)	切花長 (cm)	葉数 (枚)	花数 (個)	切花重 (g)
				始	最盛	終					
清 津 紅	7.15	27.1	7	8.26	8.27	9. 3	36	45.7	86.9	3.5	29.9
	7.25	27.5	9	9. 6	9.10	9.12	38	37.8	93.4	3.1	22.6
	8. 5	28.5	8	9.21	9.23	9.27	41	30.2	81.5	2.5	14.5
エンチャント メ ン ト	7.15	27.3	6	9. 2	9. 3	9. 6	44	48.4	100.1	4.1	38.8
	7.25	16.7	6	9.10	9.13	9.19	44	36.6	78.5	2.6	23.6
	8. 5	17.6	8	9.30	10. 1	10. 5	49	26.8	82.5	2.0	15.7
明 錦	7.15	22.4	10	9. 2	9. 5	9. 9	42	37.2	81.6	2.4	28.6
	7.25	29.4	16	9.20	9.24	10. 1	45	26.3	85.9	2.2	20.1
	8. 5	25.7	15	10. 2	10. 7	10.14	48	26.4	80.1	2.1	20.4
小 田 切 黄透し百合	7.15	18.3	19	9. 7	9. 9	9.16	37	28.5	60.6	1.9	14.7
	7.25	20.9	25	9.24	10. 4	10. 9	46	27.3	50.9	1.3	11.2
	8. 5	21.9	—	10.11	10.23	11.11	—	21.8	52.4	1.3	8.9

注. 採花期：始（20%採花），最盛（50%採花），終（80%採花）

表2 採花期と切花品質 (昭和61年)

品 種	定植時期 (月・日)	1球当たり 球根重 (g)	定植時期～ 萌芽最盛 (日)	採花期 (月・日)			萌芽最盛～ 採花最盛 (日)	切花長 (cm)	葉数 (枚)	花数 (個)	切花重 (g)
				始	最盛	終					
清 津 紅	7.15	17.5	19	9.6	9.9	9.17	37	38.9	87.2	2.5	15.4
	7.25	18.8	14	9.13	9.15	9.18	38	48.7	87.6	2.7	20.9
	8.5	20.1	13	9.24	9.28	10.1	41	41.8	87.9	2.4	16.8
エンチャント メ ン ト	7.15	22.7	15	9.11	9.14	9.18	46	43.6	93.5	3.2	24.5
	7.25	20.4	20	9.20	9.29	10.1	46	55.1	100.0	2.6	32.3
	8.5	24.7	11	10.2	10.6	10.7	51	47.7	92.9	3.4	30.9
明 錦	7.15	25.8	25	9.18	9.28	10.1	50	38.9	80.8	2.9	22.8
	7.25	26.4	20	9.26	9.30	10.4	47	46.1	83.6	3.7	31.1
	8.5	27.9	17	10.11	10.17	10.22	56	40.2	85.8	3.9	28.8
小 田 切 黄透し百合	7.15	15.7	33	9.21	9.26	10.3	40	28.3	58.8	1.2	8.5
	7.25	16.3	24	9.26	10.3	10.17	46	31.4	60.0	1.3	10.5
	8.5	16.3	18	10.9	10.17	10.26	55	29.6	59.6	1.2	10.3

注. 採花期: 始 (20% 採花), 最盛 (50% 採花), 終 (80% 採花)

(2) 萌芽日数

昭和60年は, 萌芽の早い“清津紅”, “エンチャントメント”は1週間前後, “明錦”は10～16日であったが, “小田切黄透し百合”は19～25日で最も日数を要した。昭和61年は, “清津紅”, “明錦”, “小田切黄透し百合”の7月15日定植と“エンチャントメント”の7月25日定植は, 2週間前後昭和60年より萌芽が遅延した。定植後気温が低く推移したためと推察される。

(3) 採花最盛期

昭和60年は, 7月15日定植の“清津紅”は8月下旬, “エンチャントメント”, “明錦”, “小田切黄透し百合”は9月上旬であった。7月25日定植の“清津紅”は9月上旬, “エンチャントメント”は9月中旬, “明錦”は9月下旬, “小田切黄透し百合”は10月上旬であった。8月5日定植の“清津紅”は9月下旬, “エンチャントメント”“明錦”は10月上旬, “小田切黄透し百合”は10月下旬で最も遅延した。昭和61年は, 萌芽が2週間前後遅延した“清津紅”, “明錦”, “小田切黄透し百合”の7月15日定植と“エンチャントメント”の7月25日定植では, 2～3週間採花最盛期が昭和60年より遅延し, 他の区では5～10日遅延した。萌芽最盛期から採花最盛期までの日数は, 7月15日・25日定植で少ない傾向であった。表1, 2に示すとおり, 品種ごとに2か年の各定植時期とも到達日数は, ほぼ一定しており, 定植時期から萌芽最盛期までの日数が開花の早晩に影響しているものと考えられる。各品種とも, 定植時期を遅くすることにより採花期が遅延して作期拡大に有効であった。

(4) 切花品質

切花長が長いと切花重も重い傾向であったが, 定植時期と切花長, 切花重との間には一定の傾向は認められなかった。図2に“エンチャントメント”の萌芽最盛期から採花最盛期までの平均気温の積算温度を示したが, 萌芽最盛期以後の積算温度が低く推移した昭和61年は昭和60年よりも切花長が長く, 切花重も多かった。その他の供試品種も同様の傾向が認められた。

大川¹⁾はスカシユリ系交雑品種を調査し, 大部分の品種

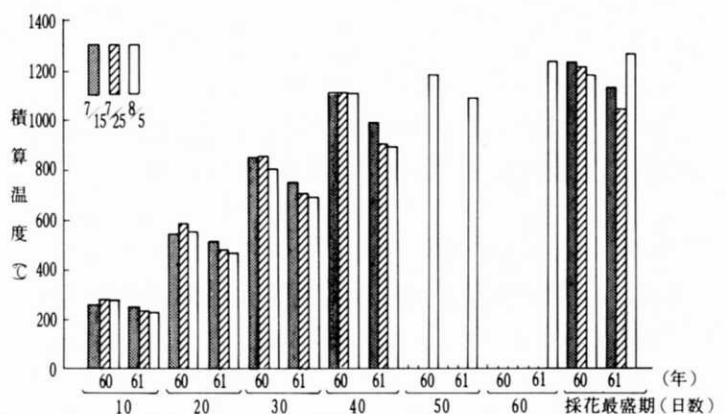


図2 萌芽最盛期後の日数と平均気温の積算温度の推移 (品種“エンチャントメント”)

は芽長2～5cmで花芽分化したと報告しているが, スカシユリの秋出しを目的とした本試験では, 発芽から萌芽期ころに, 既に芽長が5cm以上に達しており, 萌芽期までの地温が花芽分化の早晩に大きく影響するものと考えられる。このことから, 萌芽の早かった昭和60年は, 萌芽期までの地温が高く推移したため花芽分化が早まり, 切花長も短い傾向であったものと推察される。

以上の結果, 切花長の長い良品質のスカシユリを生産するには, 定植後の地温と花芽分化期および切花長との関係を更に検討する必要がある。

4 ま と め

秋出しスカシユリの定植時期と採花期及び切花品質について検討した。その結果, 一般に秋植えする球根を-2℃±1℃で長期間冷蔵し, 翌年の7月中旬～8月上旬に定植することによって, 従来の7月上～中旬から8月下旬～10月下旬までの期間の出荷が可能になり, 作期の拡大に極めて有効であった。供試した4品種中“清津紅”, “エンチャントメント”, “明錦”が適応品種と考えられた。

引 用 文 献

- 1) 大川清. 1984. スカシユリ系交雑品種の凍結貯蔵. 第1報) 茎軸の伸長開始期と花芽分化期について. 園学要旨 59秋: 294-295.